

京都大学大学文書館研究紀要

第 21 号

小特集『京都大学百二十五年史』

- 小特集にあたって 京都大学大学文書館研究紀要編集委員会 < 1 >
- 『京都大学百二十五年史 通史編』が目指したもの 西山 伸 < 3 >
- 『京都大学百二十五年史 資料編』の編集を終えて
—電子媒体による資料編製作の実際と課題— 川口 朋子 < 11 >
- 書評『京都大学百二十五年史 通史編』を読んで 吉川 卓治 < 25 >
- 書評『京都大学百二十五年史 通史編』 浅沼 薫奈 < 31 >

論文

- アーカイブズ学に基づく舞踊資料に関する基礎的考察 中村 友美 < 37 >
- 1960年代前半の大学管理問題をめぐって
—「国立大学運営法案」と「国立大学管理法案」の比較— 西山 伸 < 55 >
- 京都帝国大学における式典の制度的確立過程
—創立記念式と卒業式を中心に— 川口 朋子 < 65 >
- 電子個人記録の整理方法:
デジタル・フォレンジックスによる原秩序の検証 橋本 陽 < 79 >

書評

- 根本彰『アーカイブの思想—言葉を知に変える仕組み』 渡辺 恭彦 < 93 >

『京都大学大学文書館研究紀要』編集要項< 101 > 編集後記< 102 >

京都大学大学文書館

2023年3月20日

『京都大学大学文書館研究紀要』編集要項

1. 京都大学大学文書館に、京都大学大学文書館研究紀要（以下、「研究紀要」という。）の構成および内容に関する基本的計画の立案その他編集の総括を行うため、京都大学大学文書館研究紀要編集委員会（以下、「編集委員会」という。）を置く。
2. 編集委員会に委員長を置き、大学文書館長をもってあてる。委員は大学文書館教員とする。
3. 研究紀要には、京都大学および高等教育の歴史、アーカイヴズ論等に関する論文、研究ノート、資料紹介、書評等を掲載する。
4. 論文は、400字詰原稿用紙換算で60枚以内、研究ノートは40枚以内、資料紹介は80枚以内、書評は20枚以内とする。ただし、編集委員会で特に認めた場合はその限りではない。
5. 研究紀要に執筆することができるのは、京都大学大学文書館の教職員のほか、学内外を問わず編集委員会で選任して依頼した者、執筆を希望して編集委員会で認められた者とする。
6. 原稿は原則として未発表のものに限る。

編集後記

今回お届けする第21号には、本紀要初となる小特集『京都大学百二十五年史』と論文4本、書評1本を掲載しました。

125年史は大学文書館業務とは別の事業として発足しましたが、大学文書館所蔵資料をもとになされた大きな達成であるといえるでしょう。

通史編の執筆者西山伸による小論では、刊行までの経緯や内容構成に込められた意図が説明されています。また、沿革史刊行には大学文書館の安定的な運営が必要不可欠であることをあらためて確認することができます。

資料編の編集を担当した川口朋子は、編集方針、編集体制と作業環境、そして新型コロナウイルス感染拡大に伴う編集作業の工夫といった観点から、編集プロセスを克明にふりかえています。

吉川書評は、個人による執筆、第三高等学校史を割愛し「京都大学」に限定した点、そして日付の厳密な特定に近年の沿革史における本書の特色を見て取っています。

浅沼書評は、学徒出陣の叙述には膨大な資料の検証が背景にあることや、京都大学の理念が戦前と戦後で変容していないことを描いていることなどを本書の特徴として挙げています。

掲載諸論文は、対象が多岐にわたり実践的な提案も含むなど、読み応えのある内容となっております。

中村論文は、舞踊資料にアーカイブズ学の知見を導入する方法について考察したものです。舞踊資料がユネスコの概念枠組みに基づいて分析され、所蔵機関の類型も実例を挙げて示されています。

西山論文は、国立大学運営法案と国立大学管理法案を比較検討し、1960年代前半の大学管理問題の争点をあぶり出すことを試みたものです。

川口論文は、京都帝国大学における創立記念式、卒業式の制度的な確立について、東京帝国大学の先例とも比較しつつ詳細に検討しています。

橋本論文は、出所および原秩序尊重の原則を電子個人記録に適用する方法について概括したうえで、デジタル・フォレンジックスの可能性について言及しました。

今年度、大学文書館の建物の一部を別事業で利用する計画が学内で持ち上がりました。それに伴い文書館では、書庫資料の一部移転等について検討を重ねて参りました。また、スペースの狭隘化によって評価選別作業の再検討が必要になるなど、文書館のあり方についてあらためて考えさせられる1年間でした。5月には館内の改修工事も終わり、リニューアルして閲覧者をお迎えすることになります。これを機に、利用者や大学にとって望ましい文書館のあり方を模索していきたいと考えています。

今後も、京都大学大学文書館および本研究紀要に対するご指導をいただきますようお願い申し上げます。

(大学文書館助教 渡辺 恭彦)

京都大学大学文書館研究紀要 第21号

2023(令和5)年3月20日発行

編集 京都大学大学文書館研究紀要編集委員会

発行 京都大学大学文書館

〒606-8305 京都市左京区吉田河原町15-9

電話 075(753)2651

印刷 ヨシダ印刷株式会社

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-8-3

新大阪サンアールビル北館6階

電話 06(6305)7888

Research Bulletin of Kyoto University Archives

No.21

SPECIAL ISSUE : “125 Years’ History of Kyoto University”

About the Special Issue Editorial Committee of Research Bulletin of Kyoto University Archives < 1 >

Aims of “125 Years’ History of Kyoto University, General History”
NISHIYAMA Shin < 3 >

After Editing “125 Years’ History of Kyoto University ;
Historical Data ”
– The Process and Issues in Editing the Digital Version – KAWAGUCHI Tomoko < 11 >

Editorial Committee of 125 Years’ History of Kyoto University,
125 Years’ History of Kyoto University YOSHIKAWA Takuji < 25 >

Editorial Committee of 125 Years’ History of Kyoto University,
125 Years’ History of Kyoto University ASANUMA Nina < 31 >

ARTICLE

A Study on Dance Materials Based on Archival Science NAKAMURA Tomomi < 37 >

Some Points on University Control in Early 1960s NISHIYAMA Shin < 55 >

A Study on Institutional Establishing Processes
of Kyoto Imperial University’s Ceremonies
– Focusing on its Foundation and Graduation Ceremonies – KAWAGUCHI Tomoko < 65 >

Archival Processing of Digital Personal Records:
The Examination of Original Order by Digital Forensics HASHIMOTO Yo < 79 >

REVIEW

NEMOTO Akira, Thoughts on Archives WATANABE Yasuhiko < 93 >

Kyoto University Archives

2023. 3 . 20